

社会福祉学科

保育児童福祉コース

2年生

2025年度前期

(実技)		科目名:音楽実技ⅠC		講師: 樋上 荘一	
科目概要・目標	音楽の基礎的知識を正しく身につけることを目指す。				
	1.楽譜に関する基本的知識を正確に身につけ、楽譜を読む能力を養う。				
	2. バイエルを中心として、保育活動に必要なピアノ演奏技能を、初歩から学ぶ。				
	2. 幼児歌曲の指導能力を身に付けるため、歌うことなど、基礎技能に習熟するための準備を始める				
教科書		*標準バイエルピアノ教則本 *こどものうた名曲アルバム			
試験	中間	第1回	バイエル No.55, 60		* 楽譜は見てよい
		第2回	バイエル No.65, 66		
		第3回	幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)		
		第4回	伴奏付け(コード伴奏/2曲準備する)		
	期末	第1回	バイエル(暗譜) No.75		* 暗譜演奏。
		第2回	幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)		
回数		授業内容と、練習及び合格目標			
第1回		*ガイダンス (楽器の扱い方、授業の進め方の確認)			
第2回		*バイエル No.55, 60 *幼児歌曲			
第3回		*バイエル No.55, 60 *幼児歌曲			
第4回					
第5回		第1回中間テスト (バイエル No.55, 60)			
第6回					
第7回		*バイエル No.65, , 66 *幼児歌曲			
第8回					
第9回		*バイエル No.65, , 66 *幼児歌曲			
第10回					
第11回		第2回中間テスト(バイエル No.65, 66) *幼児歌曲 *バイエル N0. 73			
第12回					
第13回		*幼児歌曲 *バイエル N0. 73			
第14回					
第15回		*コードネームについて *幼児歌曲			
第16回					
第17回		第3回中間テスト(幼児歌曲 2曲)			
第18回					
第19回		*コードネームについて *幼児歌曲			
第20回					
第21回		*コードネームについて *幼児歌曲			
第22回					
第23回		第4回中間テスト(コード伴奏 2曲) *バイエル No.75			
第24回					
第25回		* 期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)			
第26回					
第27回		* 期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)			
第28回					
第29回		* 第1回 期末試験 (バイエル No.75)			
第30回					
第31回		* 第2回 期末試験 (幼児歌曲 2曲)			
第32回					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	中間テスト	20点	4(5－1)点×2(バイエル), 5点×2(幼児歌曲)		
	期末試験	20点	8(10－2)点(バイエル), 10点(幼児歌曲 2曲)		
	配点曲	30点	14点 バイエル:(2点×4) 55, 60, 65, 75 / (3点×2) 66, 73 16点 (2点×8) 幼児歌曲 5曲 / 伴奏付け(コード伴奏)3曲		
備考		大学スクーリング修了試験課題:No.18, 19, 40, 49, 52			

2025年度前期

科目名：音楽実技ⅠC(A群:初心者)		講師：樋上 荘一		
科目概要・目標	音楽の基礎的知識を正しく身につけることを目指す。			
	1.楽譜に関する基本的知識を正確に身につけ、楽譜を読む能力を養う。			
	2. バイエルを中心として、保育活動に必要なピアノ演奏技能を、初歩から学ぶ。			
	2. 幼児歌曲の指導能力を身に付けるため、歌うことなど、基礎技能に習熟するための準備を始める			
教科書		*標準バイエルピアノ教則本 *こどものうた名曲アルバム		
試験	中	第1回	バイエル No.80, 83	*楽譜は見てよい
		第2回	バイエル No.88, 94	
		第3回	幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)	
		第4回	伴奏付け(コード伴奏/2曲準備する)	
	期末	第1回	バイエル(暗譜) No.91	*暗譜演奏。
		第2回	幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)	
回数		授業内容と、練習及び合格目標		
第1回		*ガイダンス (楽器の扱い方、授業の進め方の確認)		
第2回		*バイエル No.80, 83 *幼児歌曲		
第3回		*バイエル No.80, 82, 83 *幼児歌曲		
第4回				
第5回		*第1回中間テスト (バイエル No. 80, 83) *バイエル No.88		
第6回				
第7回		*バイエル No.88, 94 *幼児歌曲		
第8回				
第9回		*バイエル No.88, 94 *幼児歌曲		
第10回				
第11回		*第2回中間テスト(バイエル No.88, 94) *幼児歌曲 *バイエル No.82		
第12回				
第13回		*幼児歌曲		
第14回				
第15回		*コードネームについて *幼児歌曲		
第16回				
第17回		*第3回中間テスト(幼児歌曲 2曲)		
第18回				
第19回		*コードネームについて *幼児歌曲		
第20回				
第21回		*コードネームについて *幼児歌曲		
第22回				
第23回		*第4回中間テスト(コード伴奏 2曲) *バイエル No.75		
第24回				
第25回		*期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)		
第26回				
第27回		*期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)		
第28回				
第29回		*第1回 期末試験 (バイエル No.91)		
第30回				
第31回		*第2回 期末試験 (幼児歌曲 2曲)		
第32回				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	中間テスト	20点	5点×2 (バイエル), 5点×2(幼児歌曲)	
	期末試験	20点	10点(バイエル) 10点(幼児歌曲 2曲)	
	配点曲	30点	14点 バイエル : (2点×4) 83, 88, 91, 94 / (3点×2) 80, 82 16点(2点×8) 幼児歌曲 5曲 / 伴奏付け(コード伴奏) 3曲	
備考		大学スクーリング修了試験課題:No.55, 60, 62, 66, 73, 75		

(講義)		科目名:児童・家庭福祉論		講師: 横山由里	
科目概要・目標		少子高齢化社会の進行、家庭や地域における子育て機能の低下などにより、子育て環境が著しく変化している。これからの子ども家庭福祉においては、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。このような子ども家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえ、子どもや家庭を取り巻く現代社会、次世代育支援と子ども・子育て支援、子ども家庭福祉の理念と子どもの権利擁護、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭福祉にかかわる福祉・保健施策とソーシャルアクションなどについて学修する。			
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座3 児童・家庭福祉』中央法規			
提出課題	レポート設題1	少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について述べよ。			
	学修のポイント1	子ども家庭福祉とは何か			
	学修のポイント2	少子化高齢化社会の現状と子育て・子育てへの影響について			
	学修のポイント3	子ども家庭福祉に関わる法制度について			
	学修のポイント4	子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援制度について			
	学修のポイント5	児童虐待にかかわる支援や対策について			
	学修のポイント6	子ども家庭福祉におけるソーシャルアクションについて			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		学修のポイント②子ども家庭福祉とは何か			
第2回		学修のポイント⑤児童虐待対策について			
第3回		学修のポイント⑥子ども家庭福祉への援助活動について			
第4回		子ども家庭福祉にかかわる専門職について			
第5回		学修のポイント①現代社会と子ども家庭について			
第6回		少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について①			
第7回		少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について②			
第8回		学修のポイント④子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援制度について			
第9回		学修のポイント③子ども家庭福祉に関わる法制度について			
第10回		現代の子ども家庭のかかえる課題①			
第11回		現代の子ども家庭のかかえる課題②			
第12回		現代の子ども家庭のかかえる課題③			
第13回		現代の子ども家庭のかかえる課題④			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	30点	課題提出期限が遅れたら減点 1回5点		
		20点	積極的な授業態度		
備考		積極的に頑張りましょう。 参考文献:厚生労働省『厚生労働白書』。			

(講義)		科目名:社会福祉入門		講師: 横山由里	
科目概要・目標		少子高齢化の進むわが国は、ますます福祉重視型の社会をめざしている。これから社会福祉に関わる仕事をめざす学生のために、福祉の基本や福祉に関連する職業にはどのようなものがあるのか、社会的に見て福祉とは何か、そして、福祉の職業に従事するためにはどのような資格があるのか、各々の福祉領域で必要不可欠な能力とは何か等を学修する。また同時に、これまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会における、これからの福祉のあり方についても考える。			
教科書		立花直樹・波田埜英治・家高将明 編著『最新・はじめて学ぶ社会福祉4 社会福祉 原理と政策』ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題1	福祉サービスの利用者を支えるためのしくみが定められた背景とそのしくみの概要について述べよ。			
	学修のポイント1	わが国の社会福祉法制について			
	学修のポイント2	わが国の社会保障制度の体系について			
	学修のポイント3	わが国の社会福祉行財政について			
	学修のポイント4	社会福祉を支える原理について			
	学修のポイント5	わが国における貧困をめぐる現状について			
	学修のポイント6	地域福祉の意義とその担い手について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		学修のポイント①わが国の社会福祉法制について			
第2回		学修のポイント⑤わが国における貧困をめぐる現状について			
第3回		学修のポイント②わが国における社会保障制度の体系について			
第4回		福祉サービスの利用者を支えるためのしくみ①			
第5回		福祉サービスの利用者を支えるためのしくみ②			
第6回		福祉サービスの利用者を支えるためのしくみ③			
第7回		学修のポイント③わが国の社会福祉行財政について			
第8回		学修のポイント⑥地域福祉の意義とその担い手について			
第9回		学修のポイント④社会福祉を支える原理について			
第10回		わが国の高齢者福祉について①			
第11回		わが国の高齢者福祉について②			
第12回		バリアフリーとユニバーサルデザイン①			
第13回		バリアフリーとユニバーサルデザイン②			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	30点	課題提出期限が遅れたら減点 1回5点		
		20点	積極的な授業態度		
備考		積極的に頑張りましょう。 参考文献：東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。			

(講義)		科目名:養護原理/社会的養護 I		講師: 横山由里	
科目概要・目標		児童養護は、一度だけの相談、助言、指導や治療によって終わるものではなく、ある一定の期間にわたって、意図的・継続的に展開される日々の活動を通じて行われるものであることを認識する必要がある。そこで本科目では、児童養護に関する理念と考え方、児童養護の役割や形態、児童養護の歴史的変遷など、基礎的知識を学修する。そして、実際に福祉現場に出たときに必要な知識・技術を身につけるために、児童養護に関する事例ケースを基に、ケースワークやグループワークなどの方法について分析する。			
教科書		小野澤昇、他『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。			
提出課題	レポート設題1	児童養護の意義と基本原理について述べよ。			
	レポート設題2 (社会福祉コースのみ)	施設で用いられる個別援助技術(ケースワーク)について述べよ。			
	学修のポイント1	社会的養護及び児童養護の意義と基本原理について			
	学修のポイント2	児童養護の制度と社会的養護の特質について			
	学修のポイント3	社会的養護と日常生活及び自立支援について			
	学修のポイント4	社会的養護と親子・地域との関係調整について			
	学修のポイント5	社会的養護に関わる職員の資質について			
学修のポイント6	児童支援におけるチームワークについて				
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		児童養護の意義と基本原理①			
第2回		児童養護の意義と基本原理②			
第3回		施設で用いられる個別援助技術について①			
第4回		施設で用いられる個別援助技術について②			
第5回		施設で用いられる個別援助技術について③			
第6回		学修のポイント①児童養護の意義と基本原理について			
第7回		学修のポイント②社会的養護の制度と特質について			
第8回		学修のポイント③社会的養護の日常生活及び自立支援について			
第9回		学修のポイント④社会的養護における親子・地域との関係調整について			
第10回		学修のポイント⑤社会的養護に関わる職員の資質について			
第11回		学修のポイント⑥子どもの支援におけるチームワークについて			
第12回		社会的養護にあげられる課題①			
第13回		社会的養護にあげられる課題②			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	30点	課題提出期限が遅れたら減点 1回5点		
		20点	積極的な授業態度		
備考		積極的に頑張りましょう。 参考文献:山縣 文治、他『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。			

2025年度前期

(講義)		科目名:乳児保育Ⅰ		講師:鈴木みどり	
科目概要・目標	わが国における乳児保育の発展の経緯と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。また乳児の発達・発育を留意した、乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を理解し、保育現場での課題解決方法を理解する。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として公立保育所で主任も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		大阪保育研究所『テキスト乳児保育』フォーラム・A			
提出課題	レポート設題1	乳児保育の担当保育者としての資質について述べよ			
	学修のポイント1	乳幼児期における身体の発育と運動面の発達について			
	学修のポイント2	乳児の情緒安定と「抱っこ」の関係について			
	学修のポイント3	乳幼児の集団保育の意義について			
	学修のポイント4	乳児保育のもつ現代的な課題について			
	学修のポイント5	乳児保育と保育所の制度について			
	学修のポイント6	乳児保育における保育者の配慮または留意点について			
期末試験		穴埋め試験。論述式。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション 乳児保育の課題			
第2回		乳児の情緒安定と「抱っこ」の関係について			
第3回		乳児保育のもつ現代的な課題について			
第4回		乳児保育のもつ現代的な課題について			
第5回		乳児保育と保育所の制度について			
第6回		乳児保育と保育所の制度について			
第7回		乳児保育の担当保育者としての資質について			
第8回		乳児保育の担当保育者としての資質について			
第9回		乳幼児期における身体の発育と運動面の発達について			
第10回		乳幼児の集団保育の意義について			
第11回		乳児保育の担当保育者としての資質について			
第12回		乳幼児の集団保育の意義について			
第13回		乳児保育の担当保育者としての資質について			
第14回		乳児保育における保育者の配慮または留意点について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	穴埋め試験。論述式。		
	授業内評価	10点	レポート内容、提出状況		
		20点	授業態度		
10点		実践の取り組み			
備考		乳児の発達段階をふまえた手遊びや絵本読み聞かせ、エプロンシアターの実践する。			

(講義)		科目名:保育の心理学	講師: 内山 世璃奈
科目概要・目標	心の機能は、感覚・知覚・認知、社会性、気質・性格、感情などさまざまな側面を見せながら、人の一生を通じて変化していく。発達とは、個々に異なる様相を見せると同時に、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、壮年期、老年期などの各ライフステージにおける普遍的な特長をもつ。 本科目では、発達の概念および各ライフステージにおける心理及び行動の特長について学び、人間理解の基礎を培う。		
教科書		配布資料	
提出課題	レポート設題 1	エリクソンの発達段階のうちどれかを選び、その特徴をまとめ、その段階に起こりがちな危機を1つ挙げて、その対応について述べよ。	
	〈ポイント〉	乳児期から老年期までの8つの発達段階のうち1つの時期の特徴を説明した上で、その時期に生じる危機の内容や原因などを具体的に述べ、対応について自分の意見を含めて論じる。	
	学修のポイント1	「発達」の今日的意味について	
	学修のポイント2	発達を規定する要因について	
	学修のポイント3	各発達段階の特徴とエリクソンの心理社会的危機について	
	学修のポイント4	身体・運動の発達について	
	学修のポイント5	認知・言語・感情の発達について	
	学修のポイント6	子どもの発達における今日的課題について	
期末試験		後日発表	
回数		授業内容	
第1回		オリエンテーション/GP1 発達について	
第2回		GP1「発達」の今日的意味について 作成	
第3回		GP2発達を規定する要因について	
第4回		GP2発達を規定する要因について 作成	
第5回		GP3 各発達段階の特徴とエリクソンの心理社会的危機について	
第6回		GP3 各発達段階の特徴とエリクソンの心理社会的危機について	
第7回		R1:乳幼児期	
第8回		R1:児童期・青年期	
第9回		R1:成人期・老年期	
第10回		R1 作成	
第11回		GP6 子どもの発達における今日的課題について	
第12回		GP6 子どもの発達における今日的課題について	
第13回		GP5・GP4 認知・言語・感情・身体・運動の発達について	
第14回		期末試験対策	
第15回		期末試験	
第16回		科目終了試験	
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点	
	授業内評価	40点	・レポート提出期限を守れた場合は、加点します。 ・備考に書かれているものを守れているか。
備考		授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。	

(講義)		科目名:一般教養対策講座Ⅰ		講師:室山 俊浩・山田 哲史	
科目概要・目標	近い将来、就職試験に臨むことを前提にして、民間企業で出題される一般教養(常識)をはじめ、公務員試験や教員採用試験で出題される一般教養の試験への対策を意識して問題演習を行う。各問題を解析していく中で、確実な得点力を身につけるために必要な知識や解法について注目していきたい。なお、このような問題演習は最終学年になってから始めていてはとても試験には間に合わないことは明白である。2年生や3年生のうちに時間をかけてこうした問題を解き進め、学習を地道に積み上げていくことが大切である。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		社会科学・人文科学①			
第3回		数的推理・判断推理①			
第4回		社会科学・人文科学②			
第5回		社会科学・人文科学③			
第6回		数的推理・判断推理②			
第7回		社会科学・人文科学④			
第8回		社会科学・人文科学⑤			
第9回		数的推理・判断推理③			
第10回		社会科学・人文科学⑥			
第11回		社会科学・人文科学⑦			
第12回		数的推理・判断推理④			
第13回		社会科学・人文科学⑧			
第14回		社会科学・人文科学⑨			
第15回		社会科学・人文科学⑩			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:幼児体育		講師:山口榮三	
科目概要・目標		保育士・幼稚園教諭は、子どもたちの運動遊びや身体表現の場において、言葉による指導・助言のみに頼るのではなく、保育者自身が視覚教材となり得るような動作やしぐさを身につけなければならないことを理解してほしい。したがって、身体運動に関する基本的な知識(幼児期に体得すべき基礎的動作・基本的運動を含む)の理解を深めるとともに、自身の運動能力を高めるためのプログラム、遊びの要素を取り入れながら幼児体育で取り扱う運動遊び・ゲーム・身体表現等に関する教材研究を行う必要がある。また、運動遊びにおける安全管理および安全教育に必要な知識を学修する。			
教科書		井上勝子『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び』建帛社 (参考)河田隆編著『幼児体育教本』同文書院ほか			
提出課題	レポート設題1	幼児期の運動遊びの必要性について述べよ。			
		(ポイント) 次の点を踏まえて述べること。 ①スキヤモンの発育曲線から何を読み取るか。 ②幼児期から児童期の遊びとその効果 ③体力の分類			
	学修のポイント1	幼児体育の必要性について			
	学修のポイント2	伝承遊びの種類とその効果について			
	学修のポイント3	鉄棒・跳び箱・マット遊びの指導とその効果及び注意点について			
	学修のポイント4	縄遊びの指導とその効果及び注意点について			
	学修のポイント5	リズム運動の効果について			
	学修のポイント6	安全管理や緊急時の対応について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション・幼児体育の意義について(幼児体育の必要性・スキヤモンの発育曲線)			
第2回		幼児期の運動遊びについて(特に昭和期初期から戦後)			
第3回		遊びの必要性について①(遊びが乳幼児にへ与える影響、運動能力測定とその活用)			
第4回		遊びの必要性について②(固定遊具の遊び方を考える、幼児への影響、安全管理)			
第5回		指導計画①(対象に合わせた指導案作成～体育遊び)			
第6回		指導計画①(対象に合わせた指導案作成～マット・鉄棒・跳び箱遊び)			
第7回		模擬保育①(対象に合わせた指導案作成)			
第8回		模擬保育①(対象に合わせた指導案実践)			
第9回		乳幼児の安全教育(事故の実態と原因、安全管理、安全教育)			
第10回		乳幼児の運動遊びの実際①(人と関わる・自然と関わる)			
第11回		乳幼児の運動遊びの実際②(物と関わる・遊具と関わる)			
第12回		乳幼児の運動遊びの実際③(素材と関わる)			
第13回		表現あそび(リズム遊び、音楽を使った遊び)			
第14回		創作リズム体操(創作・練習・発表会リハーサル・発表会)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	20点	レポート:提出期限までに作成できたか、自分の言葉でまとめられているかで判断します。		
		10点	実技:すすんで授業に参加しているか、体を動かしての行動等で判断します。		
10点		授業態度:本学のルール、マナーにそって、意欲的に授業を受けていたかどうかで判断します。			
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。遅刻は15分まで。その後は欠席となります。遅刻3回で欠席1回。天候等で予定を変更する場合があります。			

(講義) 科目名:子どもの保健		講師: 戎弘志	
科目概要・目標	子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義を理解する。子どもの運動機能及び生理機能の発達と保健について理解する。また、子どもの健康状態、心身の不調時の観察方法、発育・発達の把握と健康診断を具体的に学ぶ。子どもの疾患についての病態生理、その予防方法と保育者としての適切な対処方法について学ぶ。現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を学び、虐待の防止方法、早期発見、対応方法、保護者との連携や、地域との連携を学ぶ。 1) 子どもの形態的発育、機能的発達、精神機能の発達について学び、説明することができるようになる。 2) 小児期の発育・発達に必要な栄養、ことに母乳哺育について学び、説明することができるようになる。 3) 子どもの生活リズムについて学び、説明することができるようになる。 4) 子どもによくみられる疾病とその対処法について学び、説明することができるようになる。 5) 小児期の事故と安全教育、保育環境について学び、説明することができるようになる。 6) 母子保健の現状と課題について学び、説明することができるようになる。		
	教科書	保育・教育ネオシリーズ21 子どもの保健 ―理論と実際― 同文書院	
提出課題	レポート設題1	[設題Ⅰ]小児期に多い感染症とその対策について述べよ 感染症発病の要因についてまず説明する。その感染症の種類、病原体、感染経路、症状、合併症、治療法と予防方法について理解する。	
	学修のポイント1	1. 健康の概念と現代の小児保健における問題点について	
	学修のポイント2	2. 健康状態の観察について	
	学修のポイント3	3. 子どもの身体的、精神的発達及び運動発達について	
	学修のポイント4	4. 小児期に多い感染について	
	学修のポイント5	5. 小児期に多い消化器の疾患について	
	学修のポイント6	6. 保健活動と虐待防止について	
期末試験		授業中での重要ポイントを中心に出題	
回数		授業内容	
第1回		1. 胎児の発育及び胎児期の血液循環について	
第2回		胎児・新生児の血液循環について	
第3回		小児の生理機能について	
第4回		乳幼児の体温調節について	
第5回		人口動態統計と死亡率	
第6回		わが国と諸外国の新生児死亡率の推移	
第7回		小児に多い疾病	
第8回		小児の疾病の特徴	
第9回		小児の健康増進とその実践・栄養と食生活	
第10回		離乳について	
第11回		事故と安全対策	
第12回		小児の疾病とその予防対策	
第13回		わが国と諸外国の新生児死亡率の推移	
第14回		児童福祉施設における保健対策	
第15回		期末試験	
第16回		科目終了試験	
成績評価	出席率	30点	75%以上出席すること。不足した場合は再履修とする。
	期末試験	40点	持ち込み: 不可 (選択・記述) ※ただし、各授業ごとに試験のポイントを発表する。
	授業内評価	30点	(例:学習意欲、提出期限、授業中の姿勢等、総合的に評価する。)
備考		改訂・保育士養成編集委員会『新保育士養成講座第7巻 子どもの保健』社会福祉法人全国社会福祉協議会	

(実技)		科目名:子どもと造形		講師: 山田 大空	
科目概要・目標		本授業では、領域「表現」のなかの「造形」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。具体的には以下の事項について学ぶ。 ① 乳幼児の造形による表現の姿や、その発達を理解する。 ② 造形による様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 到達目標は、以下のとおりである。 1) 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2) 造形を生成する過程について理解している。 3) 乳幼児の素朴な造形を通しての表現を見出し、受け止め、共感することができる。 4) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 5) 身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特徴を生かした表現ができる。 6) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 7) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 8) 様々な造形による表現の基礎的な知識技能を生かし、乳幼児の表現活動に展開させることができる。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は青少年の健全育成を目的としたNPO法人を設立して絵画教室を運営し、中学校の美術教員の経験も有する講師のもと、図画工作の実践的な知識を学ぶ。			
		教科書		槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林	
提出課題	レポート設題1		材料経験の重要性和子どもの主体的な製作活動を促す題材化との関係について、具体的な題材例を示し、自身の製作経験も踏まえて述べよ。		
	学修のポイント1		幼児期における造形表現活動について		
	学修のポイント2		乳幼児の造形造形遊びの意義と望ましい環境づくりについて		
	学修のポイント3		造形を構成する諸要素について		
	学修のポイント4		造形技法と活動の展開について ①		
	学修のポイント5		造形技法と活動の展開について ②		
	学修のポイント6		あなたが保育者として何を大切に造形活動を行いたいのかについて		
期末試験		実技試験			
回数		授業内容			
第1回		【座学】学修ポイント2作成指導			
第2回		【制作】画材の描き比べ→スクリブル研究			
第3回		【座学】学修ポイント1作成指導			
第4回		【座学】レポート設題1作成指導			
第5回		【座学】学修ポイント4作成指導			
第6回		【制作】見立て遊びと制作→象徴的思考の研究			
第7回		【制作】エピソード絵画→直観的思考の研究			
第8回		【制作】写真画→具体的操作期の研究			
第9回		【制作】お面			
第10回		【制作】合同作品①			
第11回		【制作】合同作品②			
第12回		【制作】絵画・海の生き物			
第13回		【制作】絵画・花と植物			
第14回		【制作】絵画・人物画			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率		30点 75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験		10点 実技試験		
	授業内評価		30点 作品課題		
			30点 学習のポイント		
備考					

2025年度 前期

(実技)		科目名： 器楽Ⅰ		講師： 霞 真実子	
科目概要・目標	状況に応じて、音楽を通じて協力し、楽しんで応用できる体験をする。				
	教科書		プリント		
	期末試験		後日発表		
	回数		授業内容		
	第1回		リズム(手拍子、楽器を使って)		
	第2回		リズム合奏		
	第3回		音に合わせて動く・イメージを持って動く		
	第4回		ふりつけ 幼児曲		
	第5回		〃		
	第6回		和音付け(伴奏)		
	第7回		〃		
	第8回		〃		
	第9回		木琴		
	第10回		〃		
	第11回		〃		
	第12回		連弾		
第13回		〃			
第14回		〃			
第15回		〃			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率		30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験		10点	連弾	
	授業内評価		55点	中間発表(提出含む)	
			5点	平常点	
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(講義)		科目名:保育実習事前指導Ⅰ(保育所・施設)		講師:高木芳子	
科目概要・目標	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育演習を通して、保育場面のなかでの留意すべき事柄を確認する。 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。 3. 保育者としての心構えや態度を学ぶ。 4. 保育技術を習得する。 5. 実習記録の記入方法・内容を理解する。 6. 指導案を理解し、立案する。(主として部分実習)				
教科書		必要に応じて資料を配付			
期末試験		実習日誌を書くことの意義について説明してください。			
回数		授業内容			
第1回		保育所の生活を知る https://www.youtube.com/watch?v=iAgJsPJxwI8 https://www.youtube.com/watch?v=T_5zQpL9MaM https://www.youtube.com/watch?v=R6v8hmQgWNE https://www.youtube.com/watch?v=gSp_bo9TxbM https://www.youtube.com/watch?v=cyGHCdquiBc			
第2回		実習生としての意識と行動			
第3回		子どもの権利条約・こども基本法・全国保育士会倫理綱領			
第4回		観察実習疑似体験			
第5回		観察実習疑似体験			
第6回		実習の流れ(観察・参加・部分実習の目標作成)			
第7回		幼児文化教材の制作(構想:ねらい・発達段階)			
第8回		休講(別日に補講:茶屋とくしげ保育園実習)			
第9回		幼児文化教材の制作			
第10回		幼児文化教材の発表および振り返り 実習日誌の書き方(環境構成・幼児の姿)			
第11回		実習日誌の書き方(保育者の援助・配慮)			
第12回		実習日誌の書き方(各項目の関係と考察)			
第13回		指導計画の書き方(作成した教材を使った実践)			
第14回		指導計画の書き方(仕上げ)			
第15回		模擬保育			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	課題の提出及び発表		
備考		「自分を生かす保育実習ハンドブック」「保育所保育指針解説」を毎回持参すること			

2025年度前期

(講義)		科目名:保育内容(環境)		講師:高木芳子	
科目概要・目標	保育内容を構成する「環境」のねらいと内容について理解し、子どもを取り巻く環境について学び、環境と子どもの活動・保育における環境及び環境設定について理解する。保育の全体構造における環境に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。また、演習形式で学ぶことにより、「環境」で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として保育所で保育に従事していた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		久保健太・高嶋景子・宮里暁美 編著 新しい保育講座⑨保育内容「環境」ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題1	保育内容を構成する環境のねらいの意義をふまえ、保育者の援助および環境構成のあり方について述べよ。 環境のねらいについてふれながら、実際に具体的な例を挙げて援助のあり方を示すこと。			
	学修のポイント1	保育内容を構成する環境について			
	学修のポイント2	「積極的にかかわる」「生活に取り入れる」などの活動への援助について			
	学修のポイント3	子どもにとって自然とかかわることの意義について			
	学修のポイント4	保育における環境構成について			
	学修のポイント5	子どもを取り巻く身近な環境の理解について			
	学修のポイント6	乳幼児の安全な環境について			
期末試験		五感(視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚)を使って自然を体験することで、保育者ができる子どもの内面に向けた援助にはどのようなものがあるか考えて述べよ。			
回数		授業内容			
第1回		子どもを取り巻く環境 https://www5e.biglobe.ne.jp/~kkh/			
第2回		身近な環境とのかかわりと感性の育ち			
第3回		モノとのかかわりを通して生まれる育ち(学び)			
第4回		自然とのかかわりを通して生まれる育ち(学び)			
第5回		社会とのかかわりを通して生まれる育ち(学び)			
第6回		保育における「領域」の意義と領域「環境」のねらい及び内容			
第7回		乳児保育における「環境」とのかかわり			
第8回		休講(別日に補講:茶屋とくしげ保育園実習)			
第9回		モノとのかかわりを支える保育の展開			
第10回		自然とのかかわりを支える保育の展開			
第11回		社会とのかかわりを支える保育の展開			
第12回		領域「環境」と小学校教育のつながり			
第13回		環境における現代的課題と保育			
第14回		共に環境を創造する「創り手」としての子ども・保育者・保護者の育ち合い			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業内ミニテスト、授業要約		
備考		授業の要約は授業内で20～30分程度の時間を使ってまとめる。			

(講義)		科目名:子どもの健康と安全		講師: 権田 由香	
科目概要・目標	保育環境を踏まえ子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理の具体的な方法を学ぶ。衛生管理、事故予防及び安全対策、危機管理、防災への備えについて理解する。子どもが体調不良になった場合の対処方法、救急処置と救急蘇生法などを身に付ける。また、保育における保健的対応の基本的な考え方や3歳未満児への対応、慢性疾患やアレルギー性疾患など個別的な配慮を必要とする子どもへの対応を学ぶ。保護者や地域との連携を図る方法、保育における保健活動の計画と評価についても学ぶ。 1:子どもの発育の観察と評価方法について理解し、実施することができるようになる。 2:子どもの健康状態の観察の方法と支援について理解し、実施することができるようになる。 3:子どもの日常生活の養護の方法について理解し、実施することができるようになる。 4:子どもの一般的な症状に対する看護の方法について理解し、説明することができるようになる。 5:子どもの事故の特徴と事故防止の方法について理解し、説明することができるようになる。 6:応急手当(一次救命処置を含む)の実際を学び、実施することができるようになる。 7:集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し、説明することができるようになる。 8:子どもの健康と安全を守る保育者としての必要な態度を表現することができるようになる。				
	教科書	中根淳子・佐藤直子編著『子どもの健康と安全』 ななみ書房			
提出課題	レポート設題1	「子どもの命、健康を守るために保育者として必要なこと」について述べよ ＜ポイント＞小児期に多い病気や事故とその対処方法、また健康を保持増進するための方法についてまとめること。			
	学修のポイント1	感染症の予防と対策について			
	学修のポイント2	排泄行動の自立と援助について			
	学修のポイント3	小児期の事故の特徴とその対策について			
	学修のポイント4	母乳の分泌メカニズムと母乳栄養について			
	学修のポイント5	小児の一次救急について			
	学修のポイント6	障害のある子どもへの対応について			
期末試験	後日指示				
回数	授業内容				
第1回	子どもの健康と安全に係る保健活動について、保育所保育指針 第3章「健康及び安全」から理解する				
第2回	子どもに多い病気(症状)への対処方法を理解する				
第3回	子どもに多い事故への対処方法を理解する				
第4回	レポート下書き作成と指導				
第5回	レポート下書き作成と指導				
第6回	レポート返却指導				
第7回	小児期に多い感染症の病態生理(病原体・感染経路・主症状・合併症)とその予防対策について理解する				
第8回	排泄のメカニズムと子どもの排泄の援助について理解する				
第9回	小児期に多い事故を年齢別にまとめ、対策についても理解する				
第10回	母乳はどのようなメカニズムで分泌するのか、また母乳の利点、注意することを理解する				
第11回	学修のポイント返却指導				
第12回	障害の種類とその特徴を理解し、保育者としてどのようにかかわるのか理解する				
第13回	小児の一次救急の方法と手順を理解する				
第14回	【演習】小児の一次救急				まとめ
第15回	期末試験(スクーリング修了試験)				
第16回	科目修了試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	授業内の提出や課題の提出状況		
		20点	授業への取り組み		
備考					

社会福祉学科

保育児童福祉コース

3年生

(講義)		科目名： 保育教養演習		講師：山田 哲史・内山 世璃奈	
科目概要・目標	保育士や幼稚園教諭の採用試験を突破する上で是非ともしっかりと理解しておきたい専門教養の内容については、基本的に大学併修科目において学んできているが、それらの内容は試験対策という形に集約することでいよいよ採用試験の得点力へと繋がってくることを考えると、やはり試験対策としての学習形態を疎かにすることはできない。問題演習を反復しながら、3年次のうちに確実な得点力を身につけ、4年次の就職試験に臨めるよう備えておきたい。				
	教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。		
	期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表		
	回数		授業内容		
	第1回		オリエンテーション/保育進路ガイダンス		
	第2回		保育原理		
	第3回		教育原理		
	第4回		テストおよび確認		
	第5回		社会福祉		
	第6回		子ども家庭福祉		
	第7回		テストおよび確認		
	第8回		社会的養護		
	第9回		保育の心理学		
	第10回		テストおよび確認		
第11回		子どもの保健			
第12回		子どもの食と栄養			
第13回		テストおよび確認			
第14回		論文対策			
第15回		期末試験対策			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:教養演習Ⅰ(進路ガイダンス含む)		講師:山田哲史(HR:内山世璃奈)	
科目概要・目標	社会福祉士、精神保健福祉士、社会福祉主事任用資格、児童指導員任用資格、認定心理士、保育士資格、幼稚園教諭免許状、小学校教諭免許状など、大学卒業時に本科目の受講者はそれぞれの学科やコース応じた各種の資格を取得する。ここでは、広くそれぞれの資格の基本的な位置づけや活躍の機会について紹介するとともに、適宜、就職試験の受験を意識した試験問題の演習も行う。このようにして、近い将来、各自がどんなところで働くのかということについてのイメージを具体的に描くことができるようにするとともに、就職試験の際に出題される可能性のある問題を想定して解析し、得点力を高める一助としたい。				
	教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。		
	期末試験		内容は後日発表。		
	回数		授業内容		
	第1回		オリエンテーション		
	第2回		インターンシップ(1day 仕事体験)について説明		
	第3回		資格・就活(採用試験)関連①		
	第4回		マイナビ就活講座		
	第5回		資格・就活(採用試験)関連①		
	第6回		資格・就活(採用試験)関連②		
	第7回		資格・就活(採用試験)関連③		
	第8回		卒業生(精神保健福祉士)による体験談		
	第9回		児童養護施設などについての紹介		
	第10回		資格・就活(採用試験)関連⑤		
	第11回		資格・就活(採用試験)関連⑥		
	第12回		資格・就活(採用試験)関連⑦		
	第13回		資格・就活(採用試験)関連⑧		
第14回		インターンシップに関する資料作成			
第15回		インターンシップに関する発表会①			
第16回		インターンシップに関する発表会②			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(実技)		科目名:音楽実技ⅡB		講師: 花井 淑	
科目概要・目標	「音楽」で学んだ基本的な音楽理論(楽典、和声法)、鍵盤楽器の基本的奏法を用いて、より実践力を高めるための演習を行う。「音楽」では、演奏するために必要な知識や技術について実践を通して学んだが、「音楽Ⅱ」では、さらに発展的に様々な曲を学ぶことで技術を確かなものにする。保育現場での音楽活動に関わる演奏に発展する保育実践に焦点を当てた演奏力を身につける。				
教科書	「バイエルピアノ教則本」、「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」、「こどものうた大百科」、配布楽譜、等				
期末試験	実技試験				
回数	授業内容				
第1回	ガイダンス(楽器の扱い方、教室でのマナー、授業の進め方、進度調べ、等)。 ピアノ実技。				
第2回					
第3回	バイエル 70～106 の未終了曲 弾き歌い①				
第4回	〃 〃				
第5回					
第6回	〃 〃				
第7回					
第8回	〔中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い①〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第9回					
第10回	バイエル 70～106 の未終了曲 弾き歌い②				
第11回	〃 〃				
第12回					
第13回	〃 〃				
第14回					
第15回	〔中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い②〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第16回					
第17回	バイエル 70～106 の未終了曲 弾き歌い③				
第18回					
第19回	〃 〃				
第20回					
第21回	バイエル 70～106 の未終了曲 弾き歌い④				
第22回	〃 〃				
第23回					
第24回	バイエル 70～106 の未終了曲 弾き歌い④				
第25回					
第26回	〃 〃				
第27回					
第28回	まとめ・発表				
第29回					
第30回	〔期末試験: バイエル 70～106 から1曲、弾き歌い③④〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲				
第31回					
第32回	上記のバイエル番号は、最低ラインで、終了した学生はさらに上を目指すように。				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。出席不足の場合は再履修とする。		
	期末試験	10点	課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は 70%とする。		
	授業内評価	20点	中間テスト: 10点×2回 課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は 70%とする。		
		16点	バイエル: 4点×4曲		
		20点	弾き歌い: 5点×4曲 ただし正伴奏で弾けること(和音伴奏の場合は5曲)		
		4点	発表: 未発表のもの、ただし、試験で弾いたものは可。		
		減点	忘れ物: 減点とする(1回につき 1点減点)		
備考	弾き歌いは、教科書、または他楽譜より4曲(未合格のもの)以上を選択				

(講義)		科目名:子どもと音楽		講師:鈴木みどり	
科目概要	本授業では、領域「表現」のなかの「音楽」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音楽遊びや表現の構成などの専門的事項についての知識、技能、表現力を身に付ける。				
教科書		秋田喜代美・三宅茂夫監『「子どもの姿からはじめる領域・表現」株式会社みらい			
提出課題	設題 1	乳幼児の音楽的表現活動の具体例を挙げ、乳幼児の音楽的表現の発達について保育者はどのような視点を大切にすべきかについて述べなさい。 ポイント 領域「表現」における音楽表現の扱い・役割について理解する。			
	学修のポイント1	保育内容「表現」を捉える視点について			
	学修のポイント2	乳幼児の「生活」と「遊びの中の音楽」の関係について			
	学修のポイント3	音楽鑑賞会について			
	学修のポイント4	音楽表現による協同性や道徳性の芽生えについて			
	学修のポイント5	情報化社会と保育内容の音楽的側面の展開と工夫について			
	学修のポイント6	保育の中で子どもの発達を音楽の側面から捉える際に留意することについて			
期末試験		論述問題			
回数		授業内容			
第1回		保育内容「表現」を捉える視点について			
第2回		保育内容「表現」を捉える視点について			
第3回		音楽鑑賞会について			
第4回		音楽鑑賞会について			
第5回		保育の中で子どもの発達を音楽の側面から捉える際に留意することについて			
第6回		保育の中で子どもの発達を音楽の側面から捉える際に留意することについて			
第7回		乳幼児の音楽的表現の発達について保育者は、どのような視点を大切にすべきか			
第8回		乳幼児の音楽的表現の発達について保育者は、どのような視点を大切にすべきか			
第9回		音楽表現による協同性や道徳性の芽生えについて			
第10回		情報化社会と保育内容の音楽的側面の展開と工夫について			
第11回		乳幼児の音楽的表現の発達について保育者は、どのような視点を大切にすべきか			
第12回		乳幼児の音楽的表現の発達について保育者は、どのような視点を大切にすべきか			
第13回		乳幼児の音楽的表現の発達について保育者は、どのような視点を大切にすべきか			
第14回		乳幼児の「生活」と「遊びの中の音楽」の関係について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論述問題		
	授業内評価	10点	レポート内容、提出状況		
		20点	授業態度		
10点		実践の取り組み			
備考		幼児の歌、手遊び、リズム遊びの実技、等を取り入れ、音楽の実践をする経験。			

(講義)		科目名:保育内容総論Ⅱ		講師:鈴木みどり	
科目概要・目標	幼稚園修了までに子どもが経験し、育つことが期待されている事項、すなわち「ねらい」を達成するための内容が保育内容である。この科目では、①保育内容(5領域)を総合的に把握する、②期待される事項がどのような活動を通して、経験されていくのかを実践とつなげて理解する、③子どもの発達段階にふさわしい主体的な活動を捉える目を持ち、適切なかわりを考える、等を中心内容とする。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として公立保育所で主任も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		関口はつ江 岸井慶子 「実践理解のための保育内容総論」 大学図書出版			
提出課題	レポート課題1	子どもの発達段階による保育内容の違いを述べよ。 ＜ポイント＞幼稚園教育要領、保育所保育指針等も参考にすること。事例などによって具体的に説明することが望ましい。			
	学修のポイント1	低年齢児の園生活と保育内容について			
	学修のポイント2	保育内容の各発達段階(3歳、4歳、5歳)の特質について			
	学修のポイント3	遊びの生活と保育内容について			
	学修のポイント4	生きる力と園生活について			
	学修のポイント5	保育内容と変遷と今日的課題について			
	学修のポイント6	学校教育の基礎としての保育について			
期末試験		穴埋め問題試験			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション 保育の基本			
第2回		遊びの生活と保育内容について			
第3回		生きる力と園生活について			
第4回		生きる力と園生活について			
第5回		保育内容と変遷と今日的課題について			
第6回		保育内容と変遷と今日的課題について			
第7回		子どもの発達段階による保育内容の違いについて			
第8回		子どもの発達段階による保育内容の違いについて			
第9回		低年齢児の園生活と保育内容について			
第10回		子どもの発達段階による保育内容の違いについて			
第11回		低年齢児の園生活と保育内容について			
第12回		学校教育の基礎としての保育について			
第13回		子どもの発達段階による保育内容の違いについて			
第14回		保育内容の各発達段階(3歳、4歳、5歳)の特質について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	穴埋め問題。論述式。		
	授業内評価	10点	レポート内容、提出状況		
		20点	授業態度		
10点		実践の取り組み			
備考		3.4.5歳の発達段階を踏まえたピアノ弾き歌い、手遊び、リズム遊び等保育内容を取り入れ実技実践する。			

(講義)		科目名:子どもと言葉		講師:鈴木みどり	
科目概要・目標	本授業では、領域「言葉」の指導の基盤となる、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。①人間にとっての言葉の意義や機能を理解する②言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。③子どもにとっての児童文化財の意義を理解する。				
教科書		秋田喜代美・三宅茂夫監修『子どもの姿からはじめる領域・表現』株式会社みらい			
レポート	設題 1	子どもの誕生から小学校就学までの言葉の発達過程について、各段階の特徴を説明しなさい。 ポイント 0歳の「言葉の前のことば」の意義から取り上げて、その後の始語、一語文、二語文、などの発達過程におけるキーワードを踏まえて述べる。また、言葉の発達には個人差が大きいことにも触れること。			
科目終了試験	学修のポイント1	言葉のもつ機能について			
	学修のポイント2	子どもが有意味語を言い始める前の「言葉の前のことば」について			
	学修のポイント3	言葉のもつ4つ側面について			
	学修のポイント4	言葉遊びについて			
	学修のポイント5	児童文化財の意義について			
	学修のポイント6	児童文化財の中で、身近にある絵本、紙芝居、物語の読み聞かせについて			
期末試験		穴埋め問題試験			
回数		授業内容			
第1回		言葉のもつ機能について			
第2回		言葉のもつ機能について			
第3回		子どもが有意味語を言い始める前の「言葉の前のことば」について			
第4回		子どもが有意味語を言い始める前の「言葉の前のことば」について			
第5回		児童文化財の中で、身近にある絵本、紙芝居、物語の読み聞かせについて			
第6回		児童文化財の中で、身近にある絵本、紙芝居、物語の読み聞かせについて			
第7回		乳幼児の音楽的表現の発達について、各段階の特徴について			
第8回		言葉のもつ4つ側面について			
第9回		言葉遊びについて			
第10回		乳幼児の音楽的表現の発達について、各段階の特徴について			
第11回		児童文化財の意義について			
第12回		乳幼児の音楽的表現の発達について、各段階の特徴について			
第13回		乳幼児の音楽的表現の発達について、各段階の特徴について			
第14回		乳幼児の音楽的表現の発達について、各段階の特徴について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	穴埋め式、論述式。		
	授業内評価	10点	レポート内容、提出状況		
		20点	授業態度		
		10点	実践の取り組み		
備考		幼児の好きな歌、遊び等を取り入れ子ども理解に役立てていく。			

2025年度前期

(講義)		科目名:保育児童基礎演習		講師: 田口早苗	
科目概要・目標		保育実習に先立ち、保育の実際に触れるとともに、実習生としての基本的なあり方を学ぶ。保育の物的・人的環境(保育施設、設備、人的構成)、保育者と子どもの関係、子ども同士の関係など、知識として学んだことを実際に確認しながら、自らの保育所実習・施設実習への具体的目標や抱負について意識化する。また施設実習について、実習施設の種別ごとの意義や特徴について理解し、実習施設の選択に備える。手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居、ペープサートなど保育の基本実技を身につける。自分の日常行動の改善を図り、実習への意欲を高める。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として公立保育所、障害児通園施設、児童センターで保育に従事し、園長も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。			
教科書		大豆生田啓友、他「幼稚園実習・保育所・施設実習 第2版」ミネルヴァ書房			
参考文献		池田隆英、他「保育所・幼稚園実習-保育者になるための5つのステップ」ミネルヴァ書房 内山元夫、他「改訂福祉施設実習ハンドブック-保育士養成課程-」みらい。 開仁志「実習日誌の書き方-幼稚園・保育所・施設実習完全対応-」一藝社			
提出課題	レポート設題1	施設実習の対象施設から1つを選び、その施設の目的や設置基準、職員、利用者等の特徴を述べよ。さらに、その施設で実習すると仮定して、実習の目標や抱負について述べよ。 ＜ポイント＞実習施設については、教科書第9章p.136～と、児童福祉法37条～、児童福祉法最低基準第19条～などをよく調べる。実習の目標や抱負については、調べた施設の特徴に即して、具体的に記述すること。			
	学修のポイント1	実習を迎えるまでのステップについて			
	学修のポイント2	実習に必要な心構えと準備について			
	学修のポイント3	実習日誌の書き方と目的について			
	学修のポイント4	実習中及び、実習後の留意事項について			
	学修のポイント5	部分実習・責任実習と指導案作成の方法について			
	学修のポイント6	施設実習の実際と留意点について			
期末試験		後日授業内で指示			
回数		授業内容			
第1回		実習とは			
第2回		実習を迎えるまでのステップについて			
第3回		実習園の事前訪問			
第4回		実習日誌の書き方と目的について			
第5回		実習日誌と保育理解			
第6回		実習生的一天と保育の流れの記録			
第7回		実習に必要な心構えと準備			
第8回		部分実習と指導案作成の方法			
第9回		責任実習と指導案作成の方法について			
第10回		幼稚園・保育所での部分実習・責任実習の実際			
第11回		施設での実習の内容-施設の種類と特徴-			
第12回		施設実習を迎えるまで			
第13回		施設実習をの実際と留意点			
第14回		一日の実習の流れと実習日誌			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	15点	授業態度		
		10点	レポート内容		
15点		提出状況			
備考		前向きで積極的な授業態度を心がけてください。			

(講義)		科目名:保育カリキュラム論		講師: 田口 早苗	
科目概要・目標	乳幼児保育における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を扱う。また、「計画・実践・反省・計画の改善」の関連性についての事例を理解するとともに、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として公立保育所、障害児通園施設、児童センターで保育に従事し、園長も務めた講師のもと、保育現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		【教科書】神長美津子 他「乳幼児教育・保育シリーズ 教育課程論」 光生館			
		【参考書】今井和子、他「独自性を活かした 保育課程に基づく指導計画」ミネルヴァ書房 川邊貴子「教育課程 保育課程」東京書籍 幼稚園教育要領(平成29年3月告示) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示)			
提出課題	レポート設題1	保育・教育課程の意義について述べよ。 ＜ポイント＞子どもの発達の連続性、保育者間の共通認識、地域や家庭との連携、小学校との連携視点から、教科書を参考にし、自らの考えも加えて述べること。			
	学修のポイント1	保育における計画について ＜ポイント＞は以下すべて別紙			
	学修のポイント2	幼児期の遊びと学びについて			
	学修のポイント3	保育・教育課程の実施と指導計画の作成について			
	学修のポイント4	指導計画作成の実際について			
	学修のポイント5	保育における評価について			
	学修のポイント6	教育課程・保育課程の課題と展望について			
期末試験		後日授業で指示			
回数		授業内容			
第1回		保育における計画の重要性を理解する(教科書第1章) 「カリキュラム」、「保育(全体的な計画)・教育課程」の意味することを理解する。(学修のポイント1)			
第2回		幼児期の学習の特質を理解する(教科書第2章) 遊び、生活を通しての学びと系統的な学習との違いと関連を理解する。(学修のポイント2)			
第3回		経験カリキュラムと系統的カリキュラム(教科書第2章) カリキュラムにおける系統性と子どもの経験との関連を理解する			
第4回		幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力(教科書第3章) 幼児教育の特質における「幼児期に育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連性を理解する。			
第5回		教育課程の編成の実際(教科書第4章) 教育課程編成の手順、形式、記入内容を例を通して理解する。			
第6回		レポートの書き方とポイント			
第7回		レポート作成 演習まとめー保育・教育課程の意義とは			
第8回		幼稚園・保育園における長期計画(教科書第7章) 幼稚園・保育園における年間・期間・月の計画の目的を理解し、事例を参考に作成してみる。			
第9回		保育園における短期指導計画(教科書第7章) 保育園における週案、週日案、日案の目的と内容を理解し、事例を参考に作成してみる。(学修のポイント4)			
第10回		教育課程と指導計画の関係(教科書第7章) 指導計画の必要性。教育課程から指導計画をどのように作成するかを理解する。(学修のポイント3)			
第11回		指導計画と保育実践(教科書第7章) これまで学んだ指導計画作成上の配慮点から、計画を実践に移す際の配慮点をまとめてみる。			
第12回		保育の記録と反省(教科書第8章) 保育における記録の重要性と記録の仕方及び月、週、日の保育の反省の仕方を学ぶ。			
第13回		保育の評価と計画の改善(教科書第9章)(学修のポイント5) 長期計画、短期計画について、計画がどのように実践されたか、そこから次の計画をどう修正するか事例を通して学ぶ。			
第14回		模擬保育			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論点を正しく捉えているか。		
	授業内評価	20点	学習への参加・授業態度(発表活動)		
		20点	提出期限等(提出日に遅れた場合は減点)		
備考		授業時における学びへの姿勢や言動を重視します。授業ノートを持参し、レポート記述及び指導案作成など誤字脱字や伝わりやすい表現、見やすさも評価の対象とします。			

(講義)		科目名:子どもと健康		講師:田口 早苗	
科目概要・目標	本授業では、領域「健康」の指導に関する乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。具体的には①乳幼児の健康課題と健康の発達の意味②乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成③安全な生活と怪我や病気の予防④乳幼児期の運動発達の特徴と意義 これらの事項について理解する。				
	(実務を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として公立保育所、障害児通園施設、児童センターで保育に従事し、園長も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		【教科書】文部科学省『幼稚園教育要領解説』厚生労働省編『保育所保育指針解説』 内閣府/文部科学省/厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 【参考書】文部科学省『幼児期運動指針』(平成24年5月) 井上勝子編著『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び』建帛社 日本幼児体育学会編『幼児体育～専門～』大学教育出版 河田隆編著『幼児体育教本』同文書院 文部科学省『幼稚園教育要領』			
提出課題	レポート設題1	「子どもと健康」のねらいと内容、そして課題と重要性について述べよ。 ＜ポイント＞・健康(WHO健康の定義)・近年の社会環境と子どもを取りまく環境・安全な生活と病気怪我・乳幼児期の発育発達と運動遊びの重要性			
	学修のポイント1	乳幼児期の健康のねらいと内容＜ポイント＞は以下すべて別紙			
	学修のポイント2	乳幼児期の発育発達			
	学修のポイント3	乳幼児期の基本的な生活習慣の形成とその意義			
	学修のポイント4	乳幼児期の安全管理と健康教育			
	学修のポイント5	乳幼児期の運動発達			
	学修のポイント6	安全管理や緊急時の対応について			
期末試験		後日授業で指示			
回数		授業内容			
第1回		健康の定義と乳幼児期の健康の意義			
第2回		幼稚園教育要領保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育保育要領「健康」のねらいと内容(学修のポイント1)			
第3回		子どもの身体的特徴と身体の発育に影響を与える要因(学修のポイント2)			
第4回		乳幼児の健康(1)乳幼児の基本的な生活習慣と健康、家庭(食育を含む)生活と保育環境(学修のポイント3)			
第5回		乳幼児の健康(2)子どもの発達過程とその特徴、健康な心と身体を育てるために望ましい環境とは			
第6回		乳幼児の安全教育と安全管理、事故の実態と原因、保育現場における安全管理(学修のポイント4)			
第7回		乳幼児の怪我の特徴と病気の予防			
第8回		乳幼児の心と体の発達、自然体験を通して得られる成長			
第9回		乳幼児の運動機能の発達(1)月齢と年齢の運動遊び(3歳未満児)			
第10回		乳幼児の運動機能の発達(2)月齢と年齢の運動遊び(3歳以上児)			
第11回		乳幼児の健康課題(1－1)グループワーク(乳幼児対象)			
第12回		乳幼児の健康課題(1－2)グループごとに全体へ発表し、その後ディスカッションをして理解を深める。			
第13回		乳幼児の健康課題(2－1)グループワーク(保護者及び地域社会対象)			
第14回		乳幼児の健康課題(2－2)グループごとに全体へ発表し、その後ディスカッションをして理解を深める。			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論点を正しく捉えているか。		
	授業内評価	20点	学習への参加・授業態度(発表活動)		
		20点	提出期限等(提出日に遅れた場合は減点)		
備考		授業時における学びへの姿勢や言動を重視します。授業ノートを持参し、レポート記述及び指導案作成など誤字脱字や伝わりやすい表現、見やすさも評価の対象とします。			

(実技)	科目名:レクリエーションワーク	講師:山口榮三
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。	
教科書	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをとoshした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業 *②③の資料は山口榮三が用意します。	
期末試験	後日指示	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション・レクリエーション支援とは/現場実習について 実技体験	
第2回	レクリエーション支援の展開方法(1) 個別及び集団レクリエーション支援方法とその実践	
第3回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(1)	
第4回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(2)	
第5回	レクリエーション支援実習1	
第6回	レクリエーション支援実習2	
第7回	レクリエーション支援実習3	
第8回	レクリエーション支援実習4	
第9回	レクリエーション支援実習5	
第10回	レクリエーション支援実習6	
第11回	レクリエーション支援実習7	
第12回	レクリエーション支援実習8	
第13回	レクリエーション支援実習9	
第14回	レクリエーション支援実習10	
第15回	まとめ	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持ち込み:可 論述式
	授業内評価	30点 支援計画案の提出及びその内容で評価します。
		10点 本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します。
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。	

科目名： 器楽Ⅱ			講師	
			霞 真実子	
科目概要	器楽	様々な状況に応じて音楽を楽しみ、仲間と協力し、応用できるよう体験する。		
教科書		プリント		
期末試験		お話しの効果音		
1	4月17日(木)	リズムについて(手拍子) ①		
2	4月24日(木)	音に合わせて動く・リズム ②		
3	5月8日(木)	言葉にメロディーをつける		
4	5月15日(木)	楽譜に書く ③		
5	5月22日(木)	楽譜に書く		
6	5月29日(木)	和音をつける ④+⑤提出		
7	6月5日(木)	和音をつける		
8	6月12日(木)	連弾		
9	6月19日(木)	連弾		
10	6月26日(木)	連弾		
11	7月3日(木)	連弾 ⑥		
12	7月10日(木)	効果音		
13	7月17日(木)	効果音		
14	8月21日(木)	効果音		
15	8月28日(木)	効果音		
16	9月4日(木)	期末試験 お話に音をのせる		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験	10点		
	授業内評価	10点	平常点	
		50点	中間試験 ①②5点 ③～⑥10点	
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。		

(講義)		科目名:教養基礎演習Ⅱ	講師: 室山俊浩
科目概要・目標	本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職対策や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられているため、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般の就職採用試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。		
教科書		東京アカデミー『セサミノート②一般教養』	
提出課題	設題 1	環境問題と環境保護のための取り組みについて述べよ。	
	設題 2		
	学修のポイント1	次の出来事を年代順に並べ替え、どのような出来事か簡単に説明せよ。 (a.南北ベトナムの統一、b.ベルリンの壁の崩壊、c.湾岸戦争、d.昭和天皇の崩御、e.沖縄返還)	
	学修のポイント2	東京が4月3日の午後8時のとき、サンフランシスコ(西経120度)は何日の何時か。理由も説明せよ。	
	学修のポイント3	AB型とAB型の両親から産まれる子どものもつ血液型の確率を血液型ごとに求めなさい。理由も説明する事。	
	学修のポイント4	日本の四季の天気の特徴を説明せよ。	
	学修のポイント5	高さ19.6mからボールを水平に初速度20m/sで投げた時、ボールが地面に着くのは何秒後か。また、ボールは水平方向に何m進むか。それぞれ説明せよ。ただし、重力加速度を9.8m/s ² とする。	
	学修のポイント6	「世界遺産」とは何か説明せよ。また、世界遺産リストに登録されている日本の文化遺産と自然遺産の主なものを1点ずつ取り上げて紹介せよ。さらに、「無形文化遺産」についても説明し、日本の例を1点紹介せよ。	
期末試験		後日発表する	
回数		授業内容	
第1回		オリエンテーション / 環境問題について	
第2回		環境保護のための取り組みについて	
第3回		環境問題にどのように取り組むべきか	
第4回		学修のポイント1	
第5回		学修のポイント2	
第6回		学修のポイント3	
第7回		学修のポイント4	
第8回		学修のポイント5	
第9回		学修のポイント6	
第10回		問題演習	
第11回		問題演習	
第12回		問題演習	
第13回		問題演習	
第14回		問題演習	
第15回		期末試験	
第16回		科目終了試験	
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	持ち込み
	授業内評価	30点	提出物・授業内課題など
備考		提出物の締切は厳守すること。期限を守れなかった場合は謝罪文を添付して提出すること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。無断の座席移動も禁止。	

(講義)		科目名:保育実習事前指導Ⅱ(保育所)		講師:高木芳子	
科目概要・目標	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。 実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。 保育実習を通して、保育場面の中での留意すべき事柄を確認する。				
教科書		必要に応じて資料を配付			
期末試験		保育(部分実習)を行う上で保育者(実習生)が考えるべき要素は何か。また、それぞれの要素はどのように関連しているか説明しなさい。			
回数		授業内容			
第1回		乳幼児の生活・発達の流れ			
第2回		実習生としての心構え及び留意点			
第3回		実習日誌の振り返り(各項目の見直し)			
第4回		指導計画の振り返り(各項目の見直し)			
第5回		実習目標の作成			
第6回		指導計画の作成 https://www.youtube.com/watch?v=kvf3EdO45TI 視聴			
第7回		保育教材の制作(構想:ねらい・発達段階)			
第8回		休講(別日に補講:茶屋とくしげ保育園実習)			
第9回		保育教材の制作、発表及び振り返り			
第10回		指導計画の作成			
第11回		保育教材の制作(構想:ねらい・発達段階)			
第12回		保育教材の制作(制作手順・準備するもの/こと)			
第13回		保育教材の制作、発表及び振り返り			
第14回		指導計画の作成			
第15回		保育の展開を学ぶ(事例研究または観察)			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	50点	指導計画の提出及び課題発表		
備考		「自分を生かす保育実習ハンドブック」「保育所保育指針解説」を毎回持参すること			

(講義)		科目名:教育心理学		講師: 内山 世璃奈	
科目概要・目標		教育心理学とは、子どもを教育していく上で必要となる知識を身につけ、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探究する学問といえる。そのため、発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域について基礎知識が必要となってくる。本科目では、以上のような基礎的知識修得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。			
教科書		櫻井茂男『たのしく学べる最新教育心理学 教職に関わるすべての人に』図書文化			
提出課題	レポート設題1	子ども一人ひとりの特性に応じた教育を行ううえで考慮すべきことは何かについて、個人の特性と教授法の相互作用という視点を含めて述べよ。			
	〈ポイント〉	発達の状況には遺伝と環境があることをふまえた上で、知能やパーソナリティ、認知特性、現在の発達状況などの個人の特性に対して、子どもの発達を最大限に促すような教師の教授法とはどのようなものかを論じる。			
	学修のポイント1	認知の発達について			
	学修のポイント2	学修に関する理論と教育現場での活用について			
	学修のポイント3	パーソナリティの発達と社会化・個性化について			
	学修のポイント4	教師・学級について			
	学修のポイント5	教育における評価について			
	学修のポイント6	心身障害の理解と支援のあり方について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/学修のポイント3 パーソナリティの発達について			
第2回		P3 知能や個人差について			
第3回		P3 パーソナリティの発達・個人化・社会化 レポート作成及び指導			
第4回		学修のポイント4 教師・学級と子どもの関係について			
第5回		P4 レポート作成及び指導			
第6回		学修のポイント2 学習に関する理論と教育現場での活用について			
第7回		P2 レポート作成及び指導			
第8回		R 発達について			
第9回		R 知能や認知といった個人特性について			
第10回		R 教授法について			
第11回		レポート作成及び指導			
第12回		学修のポイント5 教育における評価について			
第13回		学修のポイント6 心身の障害の理解			
第14回		学修のポイント6 支援について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	・レポート提出期限を守れた場合は、加点します。 ・備考に書かれているものを守れているか。		
備考		授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。			

(講義)		科目名:子どもの健康と安全		講師: 権田 由香	
科目概要・目標	保育環境を踏まえ子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理の具体的な方法を学ぶ。衛生管理、事故予防及び安全対策、危機管理、防災への備えについて理解する。子どもが体調不良になった場合の対処方法、救急処置と救急蘇生法などを身に付ける。また、保育における保健的対応の基本的な考え方や3歳未満児への対応、慢性疾患やアレルギー性疾患など個別的な配慮を必要とする子どもへの対応を学ぶ。保護者や地域との連携を図る方法、保育における保健活動の計画と評価についても学ぶ。				
	1:子どもの発育の観察と評価方法について理解し、実施することができるようになる。 2:子どもの健康状態の観察の方法と支援について理解し、実施することができるようになる。 3:子どもの日常生活の養護の方法について理解し、実施することができるようになる。 4:子どもの一般的な症状に対する看護の方法について理解し、説明することができるようになる。 5:子どもの事故の特徴と事故防止の方法について理解し、説明することができるようになる。 6:応急手当(一次救命処置を含む)の実際を学び、実施することができるようになる。 7:集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し、説明することができるようになる。 8:子どもの健康と安全を守る保育者としての必要な態度を表現することができるようになる。				
教科書		中根淳子・佐藤直子編著『子どもの健康と安全』 ななみ書房			
提出課題	レポート設題1	「子どもの命、健康を守るために保育者として必要なこと」について述べよ ＜ポイント＞小児期に多い病気や事故とその対処方法、また健康を保持増進するための方法についてまとめること。			
	学修のポイント1	感染症の予防と対策について			
	学修のポイント2	排泄行動の自立と援助について			
	学修のポイント3	小児期の事故の特徴とその対策について			
	学修のポイント4	母乳の分泌メカニズムと母乳栄養について			
	学修のポイント5	小児の一次救急について			
	学修のポイント6	障害のある子どもへの対応について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		子どもの健康と安全に係る保健活動について、保育所保育指針 第3章「健康及び安全」から理解する			
第2回		子どもに多い病気(症状)への対処方法を理解する			
第3回		子どもに多い事故への対処方法を理解する			
第4回		レポート下書き作成と指導			
第5回		レポート下書き作成と指導			
第6回		レポート返却指導			
第7回		小児期に多い感染症の病態生理(病原体・感染経路・主症状・合併症)とその予防対策について理解する			
第8回		排泄のメカニズムと子どもの排泄の援助について理解する			
第9回		小児期に多い事故を年齢別にまとめ、対策についても理解する			
第10回		母乳はどのようなメカニズムで分泌するのか、また母乳の利点、注意することを理解する			
第11回		学修のポイント返却指導			
第12回		障害の種類とその特徴を理解し、保育者としてどのようにかかわるのか理解する			
第13回		小児の一次救急の方法と手順を理解する			
第14回		【演習】小児の一次救急			まとめ
第15回		期末試験(スクーリング修了試験)			
第16回		科目修了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	授業内の提出や課題の提出状況		
		20点	授業への取り組み		
備考					

社会福祉学科

保育児童福祉コース

4年生

2025年度前期

(講義)		科目名: 権利擁護と成年後見		講師: 中 寛 洋	
科目概要・目標	日常的に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として、鋭い人権感覚を身につけておくことは重要である。相談援助と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わり、成年後見制度(後見人等の役割を含む)、日常生活自立支援事業について学修する。そして、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実践について理解する。				
教科書		社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度』中央法規			
レポート	設題 1	ソーシャルワーカーとして成年後見活動を行う上での留意点について権利擁護の視点から具体的に述べよ。			
科目終了試験	学修のポイント1	法定後見制度について			
	学修のポイント2	任意後見制度について			
	学修のポイント3	成年後見人等の義務と責任について			
	学修のポイント4	成年後見制度の最近の動向と課題について			
	学修のポイント5	日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携について			
	学修のポイント6	権利擁護にかかわる組織・団体について			
期末試験		後日連絡する			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション、相談援助の活動と法			
第2回		日本国憲法、行政法、民法、社会福祉関連法の理解			
第3回		学修のポイント1・3対策(法定後見制度について)			
第4回		レポート対策(社会福祉士、精神保健福祉士)			
第5回		レポート対策(成年後見制度の義務と責任、身上監護とは何か)			
第6回		レポート対策(成年後見制度と成年後見活動)			
第7回		レポート対策(成年後見制度の流れと審判)			
第8回		学修のポイント2対策(任意後見制度について)			
第9回		学修のポイント4対策(成年後見制度の最近の動向と課題)			
第10回		学修のポイント5対策(日常生活自立支援事業について)			
第11回		学修のポイント5・6対策(日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携)			
第12回		学修のポイント4対策(成年後見制度の将来展望と他分野との関連)			
第13回		学修のポイント6対策(権利擁護にかかわる組織・団体について)			
第14回		学修のポイント6対策(権利擁護にかかわる組織・団体について)			
第15回		期末試験			
第16回		科目修了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	後日連絡する。		
	授業内評価	30点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート・清書レポート・課題レポート)の提出状況。		
		10点	授業態度(私語、居眠り等は厳禁)。		
備考		遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。			

科目名：		心理学を活かしたキャリアデザイン		講師： 平石 太一
科目概要・目標	心理学部の学生は、心理学の各分野の理解を深めると共に、社会福祉、精神保健福祉、教育などの心理学近接領域におけるヒューマンサービスの実情を学び、それぞれの現場で心理学の知見を応用していくための基礎的な力を身につけることが期待されている。その背景には、心理学を学ぶ学生が、多様なキャリアを展開させることが想定されている。本科目では、改めて心理学部に入学したことを踏まえて、心理学を学ぶことの意義を考えながら、心理学を活かした職業やキャリアの多様性を学び、社会人として踏み出すための自己理解と、将来働く場についての理解を促す。			
	(実務を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。			
教科書		資料配布		
提出課題	レポート設題1	「エゴグラム」、「ジョハリの窓」、「シャインの3つの問い」についてのワークを実施し、自身についての分析を行い、その結果を受けて、どのような大学生活を送っていききたいか、将来、心理学を仕事にどのように活かしていきたいかについて述べよ。		
	学修のポイント1	心理学を活かした援助職について述べなさい。		
	学修のポイント2	心理学を学ぶことで、どのような能力を身に着けたいのかについて述べなさい。		
	学修のポイント3	身近にある事柄や出来事などを心理学の観点から説明しなさい。		
	学修のポイント4	自分のエゴグラムの結果について分析しなさい。		
	学修のポイント5	ジョハリの窓について述べなさい。		
	学修のポイント6	シャインの3つの問いについて述べなさい。		
期末試験		後日発表		
回数		授業内容		
第1回		オリエンテーション		
第2回		エゴグラム①		
第3回		エゴグラム②		
第4回		ジョハリの窓		
第5回		シャインの3つの問い		
第6回		今の自分を考える		
第7回		過去・現在・未来に線を引く①		
第8回		過去・現在・未来に線を引く②		
第9回		心理学を活かした援助領域 保健・医療・福祉領域、教育領域		
第10回		心理学を活かした援助領域 労働・産業領域、司法・犯罪領域		
第11回		心理学から生活を考える①		
第12回		心理学から生活を考える②		
第13回		改めて今の自分を考える		
第14回		まとめ		
第15回		期末試験		
第16回		科目終了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験	30点	論述内容	
	授業内評価	40点	課題の提出状況、課題・授業への取り組み状況などを総合的に評価します。	
備考		他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。		

2025年度 前期

(講義)		科目名:情報処理演習Ⅱ		講師: 室山俊浩	
科目概要・目標	情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義は、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。 マルチメディア情報の作成や、Web技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。				
教科書		奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』 技術評論社			
提出課題	設題 1	情報化社会におけるコンピュータについて述べ、今後の電子メディアについて述べよ			
	設題 2	インターネット時代のセキュリティについて、具体的な例を挙げて、自由に論じよ			
期末試験		実技試験 (科目終了試験を兼ねる)			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / レポート対策 設題1「情報化社会と電子メディアの今後」			
第2回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第3回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第4回		レポート対策 設題2「インターネットのセキュリティ」 / レポート下書作成			
第5回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第6回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第7回		実技指導			
第8回		実技指導			
第9回		実技指導			
第10回		実技指導			
第11回		実技指導			
第12回		実技指導			
第13回		実技指導			
第14回		実技指導			
第15回		期末試験対策(実技復習)			
第16回		期末試験・スクーリング終了試験(科目終了試験を兼ねる)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	科目終了試験を兼ねる。 持ち込み不可 実技試験		
	授業内評価	30点	実技課題の作成状況、内容		
備考		下書・清書ともWORDを用いて作成すること。手書き不可。スマートフォン不可。			

(講義)		科目名:算数		講師: 松村久美子	
科目概要・目標		算数・数学科は、積み重ねの学修であるので、最も習得が難しい教科であることを認識することが必要である。同様に、指導も難しく、指導する段になって初めて、正確で広範な知識習得が必須であることに気づかされる。 この科目を学ぶことにより、指導者が必ず習得しておかなければならない①学習指導要領の重点と概要、②算数・数学科の教育内容と教育方法について高い理解に到達し、初等数学の指導にあたるための基礎を習得することができる。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校での教職経験をもち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実際を踏まえた実践的な知識を学ぶ。			
教科書		①文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編』日本文教出版社 ②土屋修・佐々木隆宏『算数教育の基礎がわかる本』学術図書出版社			
提出課題	レポート設題1	『学習指導要領』における数学的活動について、導入の経緯とその充実や内容に関して述べよ。 <ポイント> 数学的活動を通して、主体的・対話的で深い学びを実現させるためには、どのような点に留意することが必要か考えること。			
	学修のポイント1	第1・2学年での数学的活動を通じた学習活動について			
	学修のポイント2	第3～6学年での数学的活動を通じた学習活動について			
	学修のポイント3	「数と計算」領域の指導内容について			
	学修のポイント4	「図形」領域の指導内容について			
	学修のポイント5	「測定」(1～3年)、「変化と関係」(4～6年)領域の指導内容について			
	学修のポイント6	「データの活用」領域の指導の内容について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		小学校学習状況調査の算数問題を解いてみる。算数科の目標①21②10			
第2回		数学的活動①23 73―75 導入の経緯①6―9 ②13―15 領域決め			
第3回		第1学年での数学的活動を通じた学習活動について①76― 96-101			
第4回		第2学年での数学的活動を通じた学習活動について①102― 127-133			
第5回		第3学年での数学的活動を通じた学習活動について①134― 172-178			
第6回		第4学年での数学的活動を通じた学習内容について①179― 224-231			
第7回		第5学年での数学的活動を通じた学習活動について①232― 276-283			
第8回		第6学年での数学的活動を通じた学習活動について①284― 314-321			
第9回		学習活動の見解 ②41-107-144-173-203―			
第10回		「数と計算」領域の指導内容について			
第11回		↓ ①42-49 ②104-105			
第12回		「図形」領域の指導内容について ①50-56 ②142-143			
第13回		「測定」「変化と対応」領域の指導内容について①61-66 ②200-202			
第14回		「データの活用」領域の活動内容について ①67-71 ②229-230			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	教科書等の持ち物 提出物の期限遵守		
		20点	授業態度 発言・発表		
備考		ポイント・レポートでは、学習指導要領を理解し、教科書や小学校教科書から授業方法を学んだ上で、独創的な数学的活動の授業が構想できることを期待します。			

2025年度(前期)

				(担当)	
(実技)		科目名:音楽実技Ⅲ		樋上 莊一	
授業 の ね ら い	1. 「音楽Ⅰ・Ⅱ」で習得した音楽理論や、音楽表現における基礎技能をさらに磨き、音楽教育を実践する上で必要とされる、音楽の知識・技能を、習熟させる。幼児歌曲の弾き歌いを中心に、授業を進める。				
	2. 教員採用試験に向けて、必要な課題を各自練習する。				
	3. 別紙の幼児歌曲のリストの中から(一部例外は認める。)、前期のテストで演奏しなかった曲目を練習する。				
	4. ピアノは、バイエル(備考を参照)・ツェルニー・ソナチネなどの中から、各自の力に応じた曲目を練習する。				
	教科書・資料		＊標準バイエルピアノ教則本 ＊こどものうた名曲アルバム		
設 題	中間 テ ス ト ・ 期 末 試 験	楽 譜 は 見 て よ い		中 間 テ ス ト	第1回
			備考:バイエルの曲目は、下記		
			備考欄から、また、幼児歌		第2回
			曲は原則として幼児歌曲		
			リストの中から、選択する。	期末試験	
	日時	授業内容と、練習及び合格目標			
1	4月15日(火)	＊家庭学習			
2	4月22日(火)	＊ガイダンス(楽器の扱い方、授業の進め方の確認) ＊バイエル・幼児歌曲を中心に、練習			
3	5月13日(火)	＊バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する			
4	5月20日(火)	＊バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する			
5	5月27日(火)	＊バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する			
6	6月3日(火)	＊第1回中間テスト(バイエル 幼児歌曲)			
7	6月10日(火)	＊バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する			
8	6月17日(火)	＊バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する			
9	6月24日(火)	＊バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する			
10	7月1日(火)	＊バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する			
11	7月8日(月)	＊第2回中間テスト(バイエル 幼児歌曲)			
12	7月15日(月)	＊バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する			
13	7月22日(月)	＊バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する			
14	8月19日(月)	＊バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する			
15	8月26日(月)	＊バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する			
16	9月2日(月)	＊期末試験 (バイエル 幼児歌曲)			
成 績 評 価	出 席 率	30点	75% 以上出席すること。出席不足の場合は再履修とする。		
	中 間 テ ス ト	30点	15点×2回 A:5点(バイエル) , B:10点(幼児歌曲 2曲)		
	期 末 テ ス ト	20点	A : 10点 (ピアノ曲・1曲)		
			B : 10点 (幼児歌曲 2曲)		
	配 点 曲	20点	2点×10(幼児歌曲)		
備考		試験課題	バイエル〔 No.80～82, 88～91, 93, 94, 96～102, 104 〕		
			幼児歌曲〔 前期テストで演奏しなかった曲目 〕		

(講義)	科目名:教養演習Ⅳ		担当:仁井田 和也
科目概要・目標	本科目は、学生が自らのキャリアを主体的に構築するための基礎を学ぶ授業です。自己理解を深め、職業観を育み、社会や産業についての理解を広げることで、将来のキャリア形成に向けた土台を作ります。演習やグループワークを通して、自己分析力やコミュニケーション能力を高めるとともに、面接対策なども行います。		
教科書	適宜配布		
期末試験	授業時に通知する。		
回数	授業内容		
第1回	オリエンテーション、就職活動の流れについて		
第2回	福祉系法人の方による就職や仕事に関する説明 就活アプリ「キャリアシー」の案内		
第3回	自己分析Ⅰ		
第4回	自己分析Ⅱ		
第5回	業界研究Ⅰ		
第6回	業界研究Ⅱ		
第7回	業界研究発表会		
第8回	企業研究Ⅰ		
第9回	企業研究Ⅱ		
第10回	企業研究発表会		
第11回	面接についてⅠ		
第12回	面接についてⅡ		
第13回	面接予行演習Ⅰ		
第14回	面接予行演習Ⅱ		
第15回	面接予行演習Ⅲ		
第16回	期末試験		
成績評価	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	30点	持ち込み許可物件:授業時に配付の資料、自筆のノート等。	
	40点	評価ポイント:授業内課題・発表内容	
		評価ポイント:授業態度・学習意欲・積極性・忘れ物有無	
備考	本授業は、問題演習が中心となる為、進行状況によってはシラバスに変更が生じる可能性があります。スムーズな授業展開のためには受講生同士の協力が不可欠です。より良い学びとなるように自ら学ぼうとする姿勢を持って授業に臨んでください。進度によっては、授業内容を変更する可能性もあります。		

(講義)		科目名： 専門研究Ⅲ		講師：室山俊浩・山田哲史	
科目概要・目標	社会人となってからも広く役に立つ教養を身につけることを視野に入れながら、時事に着目し、世の中の動向についてイメージできるすることとあわせ、今日に至る社会を築く上で大きな影響を及ぼしたと考えられている人物にも着目し、その生き様を追体験することを通して、その人となりを学ぶ機会を提供する。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		後日発表。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/時事的トピックⅠ			
第2回		時事的トピックⅡ			
第3回		人物研究Ⅰ			
第4回		時事的トピックⅢ			
第5回		人物研究Ⅱ			
第6回		時事的トピックⅣ			
第7回		人物研究Ⅲ			
第8回		時事的トピックⅤ			
第9回		人物研究Ⅳ			
第10回		時事的トピックⅥ			
第11回		人物研究Ⅴ			
第12回		時事的トピックⅦ			
第13回		人物研究Ⅵ			
第14回		時事的トピックⅧ			
第15回		人物研究Ⅶ			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:教養演習Ⅲ		講師:室山俊浩	
科目概要・目標	公務員試験、就職試験(SPI)対策として、特にSPI試験に出てくる問題を中心に解き方を学習する。				
教科書		適宜プリントを使用する。			
期末試験		授業で扱った問題から出題。			
回数		授業内容			
第1回		問題演習			
第2回		問題演習			
第3回		問題演習			
第4回		問題演習			
第5回		問題演習			
第6回		問題演習			
第7回		問題演習			
第8回		問題演習			
第9回		問題演習			
第10回		問題演習			
第11回		問題演習			
第12回		問題演習			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		問題演習			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	授業で扱った問題から出題する。持ち込み不可。		
	授業内評価	30点	授業内態度		
備考					

(講義)		科目名:社会学概論		講師: 佐橋寿実	
科目概要・目標		対人援助職に就く者には、被援助者とそのニーズを、社会的な関係性の中で把握することが求められる。人間は社会的な関係の中で生まれ育つものであるし、援助を必要とするような問題(ニーズ)も社会的関係の中から生ずるものだからである。こうしたことから、援助職に就こうとする者には、人間を取り巻く「社会」のなりたちや変化について観察・分析する学問である社会学の学修が必要となる。この科目では、社会学の基本的な考えかたと対象について幅広く学修する。			
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座【共通科目】3 社会学と社会システム』中央法規。			
提出課題	レポート設題1	産業化とそれによる社会の変化について述べよ。			
	学修のポイント1	社会変動の要因について			
	学修のポイント2	家族の構造と機能について			
	学修のポイント3	社会システムについて			
	学修のポイント4	少子高齢化の要因と社会への影響について			
	学修のポイント5	社会集団とその分類について			
	学修のポイント6	社会学成立の時代的背景について			
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		社会学とは			
第2回		日常生活と相互行為(1)概念			
第3回		日常生活と相互行為(2)実践			
第4回		社会生活と社会集団(1) 自己の形成の場としての社会集団			
第5回		社会生活と社会集団(2) 社会集団の類型			
第6回		家族の構造と機能			
第7回		社会構成とは			
第8回		社会変動とは			
第9回		レポート作成日			
第10回		組織と官僚制			
第11回		社会システム			
第12回		都市化と地域社会			
第13回		社会問題の社会学			
第14回		個人化する社会と社会問題			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	35点	持ち込み可。論述式。		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート1本)期限厳守。遅れた場合は減点。		
		15点	授業態度(態度、発言、コメントシートへの記入、グループワークの様子などから判断する)		
備考					

(実技)		科目名:音楽実践演習Ⅱ		講師: 花井 淑	
科目概要・目標	「音楽実践演習Ⅱ」では「音楽Ⅱ」で学んだことを実践する力をさらに高めるための演習を行う。リズム活動で使用される楽曲の演奏や動きに合わせ即興的に演奏する方法を実践的に学ぶ。「わらべうた」に関する理解を深め、歌い遊べる「わらべうた」のレパートリーを増やす。リズム楽器をはじめとする保育活動で使用される楽器の正しい奏法、扱いに習熟し、子どもの歌や楽曲を楽器で楽しむ方法を学ぶ。弾き歌いの演奏技術に関しては継続的に演奏力を磨く。手遊び歌のレパートリーを増やし、手遊び歌はわらべうた同様、正しい音程で歌えるように演習を重ねる。				
	教科書		石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。 楽譜:『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。		
提出課題	レポート設題1		「子どもの歌の詩と音楽について述べよ。」		
	科目終了試験		【論術試験】 子どもに手遊びを指導する際の留意点を述べよ。		
	学修のポイント1		手遊びとはどういうものか、ということを考えることによって、保育者が留意する点を記述する。		
	学修のポイント2				
	学修のポイント3				
	学修のポイント4				
	学修のポイント5				
	学修のポイント6				
期末試験		【子どもの歌 弾き歌い】 授業中に指定された1曲を演奏する。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション: シラバス説明、(授業概要)、課題曲選曲			
第2回		リズム活動の実践① 拍、拍子感について			
第3回		ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン①、年齢に応じた手遊び歌の実践①			
第4回		リズム活動の実践② 緩急と強弱			
第5回		ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン②、年齢に応じた手遊び歌の実践②			
第6回		リズム活動③ 言葉とリズム			
第7回		ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン③、年齢に応じた手遊び歌の実践③			
第8回		リズム活動④ ニュアンスを感じて表現する			
第9回		ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン④、年齢に応じた手遊び歌の実践④			
第10回		ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン⑤、手遊び歌の発表			
第11回		ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン⑥、アンサンブルの実践①			
第12回		ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン⑦、アンサンブルの実践②			
第13回		ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン⑧、アンサンブルの実践③			
第14回		期末試験「子どもの歌弾き歌い」のための準備			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率		30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験		20点	期末試験	
	授業内評価	10点	提出物		
		30点	レポート		
		減点	忘れ物: 減点とする (1回につき 1点減点)		
備考		授業中の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(講義)		科目名:子ども家庭支援論		講師: 定行加保里	
科目概要・目標	子育て家庭に対する支援の意義と役割について理解し、保育士の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について、子どもの育ちの喜びを保護者と共有することや保護者自身の子育て実践力の向上に資する支援の重要性、保育士に求められる倫理観や受容的共感的関わりの在り方などについて習得する。さらに、社会資源の活用や関係諸機関との連携、子育て家庭のニーズに応じた様々な支援の展開、近年の子育て支援の体制や施策についても理解を深める。これらの学習を通じて、保育の現場で働く者が「家庭」を理解し、子どもの生活環境や生活状況の多様性を理解しつつ、子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援を行っていきける力を養う。				
教科書		【教科書】松原康夫、他『子ども家庭支援論』中央法規			
レポート	設題 1	【設題1】子ども家庭支援の背景と意義及び支援内容について述べよ。 [ポイント]子ども家庭支援がなぜ必要になってきたのか、①その社会的背景について説明する。また、②その意義と構造③具体的な支援内容について説明を行う。			
科目終了試験	学修のポイント1	1.子ども・子育て関連3法について			
	学修のポイント2	2.子育て家庭の福祉を図るための社会資源について			
	学修のポイント3	3.保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義について			
	学修のポイント4	4.子どもの育ちの喜びの共有について			
	学修のポイント5	5.子ども家庭支援 の対象と内容について			
	学修のポイント6	6.要保護児童及びその家庭に対する支援について			
期末試験		授業内で発表			
回数		授業内容			
第1回		地域の子育て家庭への支援			
第2回		☆子どもの育ちの喜びの共有について(学修のポイント4)			
第3回		☆子育て支援施策(学修のポイント1)			
第4回		保育の専門性を活かした子ども家庭支援(学修のポイント3)			
第5回		☆子ども家庭支援の内容と対象(学修のポイント5)			
第6回		家庭の状況に応じた支援			
第7回		子ども家庭支援の意義と必要性			
第8回		子ども家庭支援の目的と機能			
第9回		子育てを自ら実践する力の向上に資する支援			
第10回		保育士に求められる基本的態度			
第11回		子育て家庭のための社会資源について(学修のポイント2)			
第12回		保育所などを利用する子ども家庭への支援			
第13回		☆要保護児童及びその家庭に対する支援(学修のポイント6)			
第14回		まとめ・子育て支援に関する課題と展望			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	論点を正しく捉えているか。		
	授業内評価	30点	学修への参加・授業態度		
		20点	提出期限等		
備考		配布したプリントは毎回持参してください。			

(講義)		科目名:特別ニーズ教育論		講師: 花木元司	
科目概要・目標		障害の有無にかかわらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1)インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2)わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3)特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。			
		(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、特別支援学校で障害児の教育にあたってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。			
教科書		【教科書】玉村公二彦、他『新版 キーワードブック 特別支援教育』クリエイツかもがわ。			
提出課題	レポート設題1	現代の学校は、発達障害・母国語・貧困などの問題への様々な教育的ニーズに対応しなければならない。現在の学校教育が抱える問題について、インクルーシブ教育のつ視点から整理し、その解決についてあなたの考える方策を述べよ。			
	学修のポイント1	インクルーシブ教育の理念について			
	学修のポイント2	特別支援教育とインクルーシブ教育について			
	学修のポイント3	障害の理解について			
	学修のポイント4	特別支援学校の学習指導要領と教育課程について			
	学修のポイント5	障害児の教育課程について			
	学修のポイント6	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて			
期末試験		講義の中で発表する。			
回数		授業内容			
第1回		インクルーシブ教育とは ポイント①			
第2回		インクルーシブ教育の理念について ポイント①			
第3回		我が国の障害児教育 特別支援教育の歴史 ポイント②			
第4回		現在の特別支援教育の現状と課題 ポイント②			
第5回		特別支援教育とインクルーシブ教育について ポイント②			
第6回		特別支援学校の学習指導要領と教育課程について ポイント④			
第7回		特別支援学校の学習指導要領と教育課程について ポイント④			
第8回		障害の理解について 視覚障害・聴覚障害 ポイント③			
第9回		障害の理解について 知的障害・肢体不自由・病弱 ポイント③			
第10回		障害の理解について 重度重複障害児 ポイント③			
第11回		障害の理解について 発達障害:学習障害(読み書き障害)・ADHD・自閉症(ASD) ポイント③			
第12回		障害児の教育課程について 作業学習 ポイント⑤			
第13回		障害児の教育課程について 自立活動 ポイント⑤			
第14回		特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり ポイント⑥			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	的確に課題の意図を捉えているか		
	授業内評価	20点	積極的に授業に臨んだか		
		20点	提出物(期限内に提出できたか)		
備考					

(講義)		科目名： 心理学研究法		講師： 内山 世璃奈	
科目概要・目標	心理学の主要な内容とも言える感覚・知覚・学習・認知・人格・社会について、実験・調査などの実証的研究法を学ぶ。一般的に心理学の研究では何のために研究するのか研究の目的をはっきりさせ、その方法を考え、その結果を分析していく。本科目では、それらの技能と共に、データを用いた実証的な思考方法を身につけさせていくことが主要な目的である。また、結果の分析にあたっては、統計学の知識、コンピューターリテラシーも必要であり、その習得も併せてめざす。さらに、それらの研究法に内在する問題点も検討し、心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)、データを用いた実証的な思考方法、研究における倫理について理解する。				
教科書		高橋順一、他『人間科学研究ハンドブック』ナカニシヤ出版			
提出課題	レポート設題1	心理学の研究法のうち、面接法と質問紙法調査法について述べよ。			
	レポート設題2	心理学の研究法のうち、観察法と実験法について述べよ。			
	学修のポイント1	「研究とはなにか」について			
	学修のポイント2	データ収集と情報源について			
	学修のポイント3	サンプリングについて			
	学修のポイント4	人間科学における研究倫理について			
	学修のポイント5	実験論文の構成について			
	学修のポイント6	心理学で用いる尺度について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/P1 研究について			
第2回		P1 研究について P3 サンプリングについて			
第3回		P2 データ収集と情報源について			
第4回		P2 データ収集と情報源について			
第5回		R2 観察法について			
第6回		R2 観察法について			
第7回		R2 実験法について			
第8回		P6 尺度について			
第9回		R1 面接法について			
第10回		R1 質問紙法について			
第11回		R1 面接法・質問紙法について			
第12回		P4 研究倫理について			
第13回		P5 実験論文の構成について			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	・レポート提出期限を守れた場合は、加点します。 ・備考に書かれているものを守れているか。		
備考		授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。			

(講義)		科目名:生 活		講師: 小河直子	
科目概要・目標	幼児期から児童期へのスムーズな活動の移行を意図して、教科「生活」が設定された。「生活」では、幼児からの連続を踏まえて、具体的な活動や体験を通して自分と身近な環境とのかかわりを大切にしながら実感的に学んで知的な気づきを深めたり、自分自身や自分の生活について考えたり、基本的な生活習慣を身につけたりする。したがって、本科目では、「生活」の趣旨や目標および内容について学ぶ際に、幼児保育との関連を重視する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校で教員として学校教育にあたった講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編			
提出課題	レポート設題1	幼児保育の基本と、教科「生活」の目標や内容との関連や連続について具体的に考察して述べよ。 ポイント「生活」は子どもの実感を伴った気づきを重視する。したがって、子どもの身近な環境との情緒的なかかわりが学びの第一歩となる。子どもの心と頭と身体活動が一体となった学びの姿を見出すようにすること。			
	学修のポイント1	教科「生活」の内容と特色について			
	学修のポイント2	目標や内容が2学年まとめて示されることについて			
	学修のポイント3	幼児の集団保育と「生活」の基本的な生活習慣を重視する。事の関連について			
	学修のポイント4	幼児の「探検遊び」と「生活」の学習との関連について			
	学修のポイント5	「生活」と他教科等の学習との関連について			
	学修のポイント6	「生活」の特質と気づきの質を高める事の関連について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション・シラバス・レポートの課題について理解する。生活の概要を知る			
第2回		生活の内容と特色について教科目標に触れながら理解する。学修ポイント1			
第3回		幼児教育と生活科の共通する点を「生活」の内容と特質を踏まえて考察する			
第4回		生活科の三層構成について理解する。スタートカリキュラム学修ポイント2			
第5回		生活科の内容と子どもの生活圏に関わらせる意義を理解する。アサガオの種を観察する			
第6回		生活科の内容学校・家庭・地域について子どもの生活環境との関連を探る。			
第7回		ごっこ遊びと生活の関連について学修ポイント4			
第8回		生活科の評価について知る。スタートカリキュラムの役割について			
第9回		学校探検の役割と意義・自分の成長の成長について学修ポイント3			
第10回		幼児の「ごっこ遊び」と「生活」の学習との関連について学修ポイント5			
第11回		生活科の教科書の使い方を知る。自分の成長を考える学修ポイント6			
第12回		生活科の授業の実際について知る。(教師の授業を見て)			
第13回		生活科と他教科等のつながりについて考える。タブレット端末について使用状況を知る			
第14回		まとめとテスト対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	課題意識を持ち分かりやすく論述できたか。		
	授業内評価	20点	レポート・学修ポイントの提出期限を守れたか。		
		20点	積極的に授業に参加できたか		
備考		はさみ・のりを持ってくる。振り返りカードを毎時書く、14回にまとめる。			

(講義)		科目名:教育心理学	講師: 内山 世璃奈
科目概要・目標	教育心理学とは、子どもを教育していく上で必要となる知識を身につけ、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探究する学問といえる。そのため、発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域について基礎知識が必要となってくる。本科目では、以上のような基礎的知識修得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。		
教科書		櫻井茂男『たのしく学べる最新教育心理学 教職に関わるすべての人に』図書文化	
提出課題	レポート設題1	子ども一人ひとりの特性に応じた教育を行ううえで考慮すべきことは何かについて、個人の特性と教授法の相互作用という視点を含めて述べよ。	
	〈ポイント〉	発達の状況には遺伝と環境があることをふまえた上で、知能やパーソナリティ、認知特性、現在の発達状況などの個人の特性に対して、子どもの発達を最大限に促すような教師の教授法とはどのようなものかを論じる。	
	学修のポイント1	認知の発達について	
	学修のポイント2	学修に関する理論と教育現場での活用について	
	学修のポイント3	パーソナリティの発達と社会化・個性化について	
	学修のポイント4	教師・学級について	
	学修のポイント5	教育における評価について	
	学修のポイント6	心身障害の理解と支援のあり方について	
期末試験		後日発表	
回数		授業内容	
第1回		オリエンテーション/学修のポイント3 パーソナリティの発達について	
第2回		P3 知能や個人差について	
第3回		P3 パーソナリティの発達・個人化・社会化 レポート作成及び指導	
第4回		学修のポイント4 教師・学級と子どもの関係について	
第5回		P4 レポート作成及び指導	
第6回		学修のポイント2 学習に関する理論と教育現場での活用について	
第7回		P2 レポート作成及び指導	
第8回		R 発達について	
第9回		R 知能や認知といった個人特性について	
第10回		R 教授法について	
第11回		レポート作成及び指導	
第12回		学修のポイント5 教育における評価について	
第13回		学修のポイント6 心身の障害の理解	
第14回		学修のポイント6 支援について	
第15回		期末試験	
第16回		科目終了試験	
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点	
	授業内評価	40点	・レポート提出期限を守れた場合は、加点します。 ・備考に書かれているものを守れているか。
備考		授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。	

(講義)		科目名:リハビリテーション論		講師: 戎 弘志	
科目概要・目標	リハビリテーションは障害者への総合的対策・技術であり、身体的のみならず、精神的、社会的、経済的、職業的に可能な限りの回復を図る援助過程である。その意味では、障害者の基本的人権の具体化をめざす総合的援助体系であるともいえる。本科目では、医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーションの理論と実践をバランスよく学ぶことで、総合的な援助体系としてのリハビリテーションの本質についての理解を深める。				
教科書		浅野大喜『リハビリテーションテキスト 人間発達学』メジカルビュー社			
提出課題	レポート設題1	[設題1] リハビリテーションの理念について述べよ。 ＜ポイント＞リハビリテーションの理念や定義がどのような歴史的変遷を経て今日に至っているか、また、その社会的背景についてもまとめること。			
	学修のポイント1	職業リハビリテーションについて			
	学修のポイント2	社会リハビリテーションについて			
	学修のポイント3	地域リハビリテーションについて			
	学修のポイント4	教育リハビリテーションについて			
	学修のポイント5	リハビリテーションの専門機関と専門職について			
	学修のポイント6	社会福祉とリハビリテーションについて			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		社会福祉とリハビリテーションについて			
第2回		リハビリテーションの理念について 1			
第3回		リハビリテーションの理念について 2			
第4回		リハビリテーションの理念について 3			
第5回		障害者の「自立」に必要な社会環境について 1			
第6回		障害者の「自立」に必要な社会環境について 2			
第7回		障害者の「自立」に必要な社会環境について 3			
第8回		障害者の「自立」に必要な社会環境について 4			
第9回		職業リハビリテーションについて			
第10回		社会リハビリテーションについて			
第11回		地域リハビリテーションについて			
第12回		リハビリテーションの専門機関と専門職について			
第13回		教育リハビリテーションについて			
第14回		障害者福祉関係の法体系と施策について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験(社福)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	学修のポイントにおける2回の提出課題の提出状況と内容を評価する。		
備考		最新・社会福祉士養成講座 1 医学概論 (副)教科書として使用			